

ホンモロコ稚魚の沿岸域と河口域への放流効果の比較

吉岡 剛

◆背景・目的

従来、ホンモロコ稚魚（全長20mm）放流は沿岸域に行われている。水産試験場の調査により、稚魚を犬上川河口域に放流すると効果の高いことが明らかとなった。そこで、本年度はホンモロコ稚魚を従来の沿岸域と河口域へ大規模に放流することにより、放流場所としての河口域の効果を検証した。

◆成果の内容・特徴

- ・放流は、平成20年6月18日に沿岸域として湖北町、西浅井町、新旭町の3地点に61,239尾、平成20年6月20日に河口域として余呉川、大浦川、知内川の3地点に合計541,588尾行った。沿岸域放流魚と河口域放流魚にはそれぞれ別のALC標識を施した（表1）。
- ・放流効果調査の標本は、平成20年10月9日～平成21年1月8日にかけて琵琶湖で刺網、沖曳き網、えりで漁獲された3,139尾を用いた。標識魚は、沿岸域放流魚が217尾、河口域放流魚が282尾を確認された。
- ・各放流群の再捕率は、沿岸域放流魚が0.033%、河口域放流魚が0.052%であり、河口域放流が沿岸域放流に比べて放流効果の高い結果となった。
- ・沖曳き網で漁獲されたホンモロコの体重を標識別に比較した結果、沿岸域放流魚と河口域放流魚の間に差は見られなかったが、放流魚は、天然魚に比べてやや小さい傾向が見られた。
- ・河口域放流は、活魚車から直接琵琶湖に放流することができるため、船を使用する沿岸域放流に比べ天候に左右されず、作業工程を軽減できる。

放流群	沿岸域放流			河口域放流		
放流日	6月18日			6月20日		
放流場所	湖北町	西浅井町	新旭町	余呉川	大浦川	知内川
平均全長	22.36mm	21.10mm	21.82mm	21.96mm	23.51mm	22.42mm
放流尾数	226,875	209,877	224,487	207,949	146,444	187,195
再捕尾数	217			282		
再捕率	0.033%			0.052%		

◆成果の活用・留意点

ホンモロコ20mm種苗を事業規模で放流した結果、従来の沿岸域放流に比べ、河口域に放流した方が効果の高いことが明らかとなった。しかし、今回標識放流を行った地域は北湖北部のみであるため、他の地域の河口域放流の効果についても検証する必要がある。